



# 楠の葉

佐賀大学同窓会報 第18号

発行日 2013年1月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内  
TEL 0952-23-1253  
FAX 0952-25-5700  
E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp  
ホームページ <http://dousou.ext.saga-u.ac.jp>

編集代表者 江村 正

## “佐賀大学美術館いよいよオープン”

佐賀大学同窓会会長 宮島 豊 秀

明けましておめでとうございます。

ご案内の「旧佐賀大学」と「佐賀医科大学」の統合10周年記念事業として、本学のシンボルとなる美術館が本年10月1日にオープンします。いつも変わらぬ同窓会員の皆様の母校への思い入れの高まりにより、募金も徐々に目標額に近づきつつあります。開館へ向けての工事もスケジュール通り昨年11月下旬入札となり、いよいよ本格的な建設が始まりました。誕生の暁には、九州の国立大学で唯一の特色ある美術館として、個性的な総合大学の印象を今まで以上により深めることと思います。

また、昨年10月28日、佐賀大学本庄キャンパスにおいて「第1回佐賀大学ホームカミングデー」が開催されました。このホームカミングデーは、卒業生を大学に招き、母校への理解と支援を目的として実施されました。第1回目は、佐大を卒業後、40年、

30年、20年の節目を迎えた佐賀県在住の同窓生の皆さんを招きました。当日は、大学祭が行われており、普段とは一味違う賑やかな雰囲気の中、昔の思い出に花を咲かせたり、キャンパスを久しぶりに懐かしく見学する卒業生の姿が各所に見られました。

なお、アトラクションでは、佐大の学生で結成された「嵐舞」によるヨサコイの披露があり、会場が一気に盛り上がりました。さらに、会場の外のスペースには、本学の美術・工芸課程の教員の作品が展示され、すばらしい作品の数々に目を奪われていました。

これからも、ホームカミングデーを定期的に開催して、交流の和を繋いでほしいとの意見が出されました。大学と協議して今後も続けたいと思います。

本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。



# 支部だより

## 筑後支部 講演会・総会・懇親会

平成24年10月27日(土)、柳川市内の「ランヴィエール勝島」において表記同窓会が開催された。

本部から宮島会長、石丸副会長、山口副会長、米満理事、川副副理事長の5氏に出席していただき、地元筑後支部会員34名が出席した。

まず講演の部には、筑後市に事務所を開設した伊藤修一氏（農学・57年卒）の「田舎弁護士奮闘記」のテーマで自叙伝があり、若くして父親を亡くされ、逆に、それがきっかけとなり今で言うフリーターをやりながら何度も何度も司法試験にチャレンジした。母親は近所の人から「お宅の坊ちゃんいったい何されているのでしょうか？」とまでいわれた。

「ようやく17年ぶりで合格したときは、母が一番喜んでくれました…」という感激のひとつまには思わず感無量となりました。

氏が言うには、畑ちがいの仕事をしている自分が、逆に今日の多様化社会に功を奏した気がするとのこと、益々奮闘していただきたいものです。

総会は宮島本部長から来賓挨拶のなかで「卒業生もお陰で述べ5万人をこえた」。また今では「教える教育から考える教育に様変わりしている」など



大学の現況説明がり懇親会に移った。

三小田氏（S36・教育）の乾杯で祝宴となり恒例の福田氏（S29・文理）の「巻頭言～南に遠く」が舞台の上で始めるとわれさきにと加わり「絆の輪」が広まった。

この日に向け福田氏がひそかに持参の「旧制佐高の制帽、制服」まで身に付けた本格的ないでたちには、みな驚きと感激でいっぱいでした。

また、今回待鳥訓宏君（理工4年）と吉丸佳成君（医学2年）の現役学生さんにも参加してもらい、大成功でした。

同窓会に学部の間壁はありません。これからも母校を愛する皆さんはまず参加して、絆を深めましょう！

支部長 大村 直（農学・40年卒）

## 諫早支部 懇親会

平成24年10月27日、諫早市内のホテル「L&Lホテルセンリュウ」にて、平成24年度諫早支部の懇親会を開催しました。本部より秋永会長代理（理工学部同窓会会長）をはじめ、各学部同窓会の代表者3名を迎え、総勢16名の出席でした。

始めに、長濱支部会長から歓迎の挨拶があり、来年初立30周年を迎えるので、何とか盛大なものになるように工夫が必要であることを強調しました。

次に、秋永会長代理に来賓者を代表して祝辞ならびに大学の現況を説明していただいた。特に印象的だったのは、本部においても同窓会の見直しが必要との観点から、「同窓会見直し委員会」を立ち上げているとのことでした。また、理工学部が3年後に創設50周年を迎えるとのことでした。

懇親会は、古川支部顧問（教育）の音頭でスタートし、合間に宮尾有朋会長、長楠葉副会長、有馬農学部副会長より、各学部の現状、同窓会の活動が紹介されました。

歓談の中で、「各支部同窓会が10月から11月に集



中している。5月～6月ぐらいに新人歓迎の意味を持って開いてみたら面白いかもしれない。ただ現状では、出身大学等は個人情報保護の関係で知ることができない。そこで、同窓会本部の出番ではないのか？大学と連携をとりながら就職先を各支部に知らせるという方法もとれるのではないか」等話が弾んだ、和やかな2時間でした。

学生歌「楠の葉の」を斉唱後、臼井前会長（現顧問）の万歳三唱で有意義で楽しい懇親会を閉会しました。本部からの来賓諸兄に感謝しております。

支部会長 長濱 孝基（教育・38年卒）

## 佐世保支部「むつごろう会」総会・懇親会

平成24年11月17日(土)15時より佐世保駅前レオプラザホテルにて第17回「むつごろう会」を開催しました。本部からは会長代理、有朋会会長宮尾正隆様、理工学部同窓会理事中島道夫様、楠葉同窓会理事松尾和俊様にご臨席を賜り、支部からは女性4名を含む20名、総勢23名の出席でした。30代・40代の若いエネルギーのある人の参加が待ち望まれます。

総会は事務局の南里正幸氏(教育・56年卒)の司会で始まり、ご来賓を代表して宮尾様にご祝辞と大学の現況についてお話いただきました。「佐賀大学では統合10周年記念事業として美術館設置事業や正門整備を行うことになった。美術館設置については、同窓会の皆様にご支援を賜りたい。各学部の活動状況については行政と連携して県内の経済や農業など各分野で活動している。」とのことでした。

佐賀大学が地域と密接に連携し、益々発展の一途を辿っていることに意を強くし、母校の弥栄を祈るばかりです。

次に役員人事の件で副会長前川雅夫氏(文理・46年卒)が一身上の都合で役員を辞退したい(幹事にはなっていただきます)との申し出があり了承されました。前川氏に代わって前諫早支部長臼井寛氏(文理・34年卒)を役員に推挙し、満場一致で承認されました。

臼井氏は「むつごろう会」草創期の頃からご尽力



をいただいております、本会の更なる発展のためにお力添えをいただきたくお願いした次第です。

総会のあと、洋画家森達郎氏(教育・35年卒)に「ヨーロッパを旅して」と題して講話をしていただきました。森先生は訪問国の写真やスケッチをスクリーンに写しながら、石造りの建築物や石畳の道やすばらしい自然の織りなす風物に画材を求めて旅をしたことを説明されました。ヨーロッパの歴史と伝統が息づく石造の文化に触れながら、私達も一緒に旅をしているような臨場感に包まれました。

懇親会は事務局の竹藤広敏氏(教育・59年卒)の司会で始まり、自己紹介のあと往時を回顧しながら熱き想いを語り合い、酒を酌み交わしながら秋の夜長を楽しく過ごすことができました。

最後は顧問の十時淳氏(文理・30年卒)のご発声で2014年11月15日(土)の再会を約し、万歳三唱でお開きとなりました。

支部長 杉原 義秋(教育・31年卒)

## 山口支部 総会・懇親会

平成24年11月17日(土)、山口県美弥市秋吉台家族旅行村にて山口支部の同窓会を開催いたしました。

交通不便な山中で開催を厭わず、本部より有馬会長代理様をはじめ、3名の御来賓の方々に御出席いただき誠にありがとうございました。佐古前学長にも御出席いただき、総勢では16名の会合となりました。

日の落ちる4時に、当施設の研修室にて校歌斉唱とともに支部会を開催しました。支部会修了後、バーベキュー広場へ移動し、夜の帳が下りる晩の7時半まで懇親会を実施。寒い中、バーベキューの炭火を囲みながら皆で語り合い、10代・20代の気持ちに戻りました。

ビールを飲み終えたら秋吉台の山小屋に泊まり、眠りに就くまで沢山のことを語り明かしたと思います。人数は少ないながらも充実した会であったと思



います。

次回、山口県東部の岩国市で11月に開催しようという意見が出てまいりました。開催場所については、今後の1年間で調整していきたいと思っております。次の同窓会開催の節には多数の方に御出席いただきたいと思います。

事務局 今村 哲夫(経済・52年卒)

# 支部だより

## 大分支部 総会・懇親会

平成24年11月17日(土)、大分市の「ホテルキャッスルOITA」において、大分支部の総会・懇親会を開催いたしました。

同窓会本部から、長 楠葉同窓会長（同窓会長代理）をはじめ4名の来賓をお迎えし、支部会員23名（うち女性4名）が参加して盛会に行われました。今年も、毎年参加される方が数名欠席となった一方で4名の初参加があり、来賓の中にも初めて大分を訪れた方もいて、フレッシュな顔ぶれを迎えての総会となりました。

総会では、島田支部長のあいさつ、来賓の祝辞に続き、1年間の経過報告が行われました。続いて新役員を選出が行われ、牧野新支部長と佐藤事務局長を承認。新体制へ移行しました。新役員の就任あいさつに続いて島田前支部長が退任あいさつをされ、「これからは若い世代が同窓会を盛り上げてほしい。」とのエールに新執行部は決意を新たにしました。



第二部の懇親会は、新支部長あいさつ、理工学部同窓会米満理事の乾杯で開宴。今年はずっととは違う畳の座敷でしたので、あちこちで膝を交えての輪ができ、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。毎年出会うなじみの顔ぶれでは近況報告や趣味の話がはずみ、初参加の方を囲んで仕事や学生時代の昔話などに時を忘れ、あっという間に時間は過ぎていきました。名残は尽きませんがやがて終宴の時間。来年の総会での再会を約束して散会しました。

まだ見ぬ大分支部会員の皆さん、来年こそ是非お会いしましょう。そして今年参加された皆さん、次回は仲間をさそってのご参加、お待ちしております。

事務局 佐藤 吉昭（農学・元年卒）

## 東京支部 総会・懇親会

平成24年11月18日(日)「新宿ワシントンホテル」において、東京支部総会・懇親会を開催しました。今回は初の試みとして昼間（正午～14時30分）で、全員椅子に座っての会としました。佐賀からの来賓を含む総勢70名が集い、和気あいあいとした賑やかな会となりました。総会では佐賀大学キャリアセンター長池上教授、佐賀大学同窓会宮島会長より、大学・同窓会の近況報告をうかがい、益々発展・躍進目覚ましい母校に更なる期待を強くした次第です。懇親会では先輩・同輩・後輩が入り交じり、名刺交換をしてる人、学生時代の思い出を語り合う人、椅子席を忙しく廻る人、立ち話に花が咲く人等それぞれが楽しい有意義な時間を過ごしました。福引きでは司会者が当り番号を読み上げると、拍手・歓声がわ



き受け取る人の嬉しそうな顔が印象に残りました。最後に恒例の「不知火寮寮歌」“南に遠く”の巻頭言で歌い踊り佐賀大学学生歌“楠の葉の”を全員で合唱しフィナーレとなりました。2年後の再会を約し、名残りを惜しみつつ家路につきました。

支部長 和田 紘一（文理・40年卒）

## 佐賀市民芸術祭との連携 期待される学生、教職員の参加

現在、佐賀市においては、平成25年秋開催を目指して初の佐賀市民芸術祭（仮称）の準備が進められています。筆者はたまたま佐賀市教育委員会より依頼を受け、同芸術祭実行委員会（園田寛委員長）の委員を引き受けていますので、現時点で公表できる内容と佐賀大学に対する期待の大きさについて紹介したいと思います。

佐賀市では、2年半前、佐賀市文化振興基本計画策定委員会（高島忠平委員長）を設け、昨年4月、報告書が発表されました（写真）。



同委員会にも筆者は副委員長として参加しましたが、市民芸術祭開催は五つの重点事項の一つとして掲げられたものです。

同芸術祭は、佐賀市文化会館をメイン会場として、主なイベントは、平成25年11月15日(金)、16日(土)、17日(日)の3日間に渡って催されますが、9月頃から、市内各所で開かれる多種多様なプレイベントも含まれます。

メイン会場では、多様なコンサート、作品展示、ワークショップ等が計画されていますが、美術関係ではすでに佐賀大学関係者の絵画、染色などの平面作品、彫刻等の立体作品の展示、映像表現のデモンストレーションなども予定に入っています。

また、4月以降、市民報等で市民によるプレイベントの参加募集もなされるはずですが、文化教育学部をはじめ佐賀大学では、文学、美術、音楽、演劇、ダンス等の文化活動が活発に展開されていますから、応募して参加資格を得、タイトルに「佐賀市民芸術祭参加」という冠を付ければ、佐賀市民芸術祭のプログラムに記載される等の支援を受けることになります。

佐賀市民芸術祭は、他でよくあるような数千万円を費やして、外国の一流演奏家を招いて市民に鑑賞の機会を与えるという形式のものではなく、市民による市民のための文化振興を目指しています。

ただ、平成25年度は、初年度ですから準備等の都合上大規模のものにはなりません、年を追うごとに盛大なものに発展していくものと考えます。

佐賀市民芸術祭実行委員会では、佐賀市に存在する佐賀大学には当然大きな期待を寄せています。現在、建設着工を目前にしている佐賀大学美術館等も佐賀市の文化振興に大きく寄与する拠点となり得るはずですが、そうなることがまた佐賀大学のレーゾンドートル（存在理由）をよりいっそう高めることになるものと信じます。

文責 前村 晃（教育・45年卒）

# 経済学部と楠葉同窓会の意見交換会

恒例の経済学部と楠葉同窓会の意見交換会が、11月22日(木)「ホテルニューオータニ佐賀」で18時30分から開催された。

経済学部からは、本年4月就任の平地一郎新学部長のほか、中村博和副学部長、山本長次就職委員長、木島敏明事務長、更に全学的な立場から池上寿伸キャリアセンター長、山中健正就職支援課長が出席された。

同窓会からは、石丸新会長のほか6名が出席した。

冒頭、石丸同窓会会長から、「言いつ放さない会合にしたい。就職率のよい大学になってもらいたい。」との切り出しに対し、平地学部長からは「平成25年度からの学部改組により、求められる人材像への対応を図った。また、これまでの課程が学科に変わることや入学定員減少を周知するために関係約80校を回り、大変だったが結果的に繋がりを得ることができた。ただ、改組により教育量が増し、教員の負担が過重となる心配のほか、積極導入を諮っているアクティブラーニング（実践教育）の内容充実に苦勞している。これらに卒業生の力をお借りしたい。」との意見が述べられた。

また、今年の学部の就職内定状況は10月1日現在58.8%に止まっているが、これから年度末に掛け20%程度上昇し、他に公務員試験もあるので最終的には98%ぐらいまでいく見込みとの報告がなされた。

しかし卒業時に無職の学生をできるだけ無くすために各界の協力が欲しいとして、特に企業内の卒業生に対しては人事関

係の情報提供や企業訪問の際は単なる名刺交換に止まらずも少し接点がほしいとの大学側の要望が出された。

一応の状況説明のあと、場は懇談に移ったが、同窓会側から活動を身内だけの行事消化から発展させたいとの表明に対し、学部側からは長年培われたゼミ教官のもとの教育は親密な関係は育っても限界がある、については実践教育において弁護士会、野村證券などからの連携を受けているが、卒業生からも知識・経験を活かしたご支援を頂きたい、更に好意にすぎた支援は継続性に疑問があるので何とか制度化できないかと重ねて意見が出された。これについて、同窓会側は役員会での検討を約束した。

このほか、大学は文科省から「大学改革実行プラン」によって地域との連携を求められており、生涯教育についての相互の関係作り要望に対しても、同窓会として協力的な検討を約して散会となった。



# 子宮頸がんは予防できる時代に

佐賀大学医学部医学科産科婦人科学講座 横山 正俊



平成24年10月1日付けで産科婦人科学講座の教授に就任しました横山正俊です。私は、鹿児島出身で、昭和59年に佐賀医科大学を一期生として卒業しました。産科婦人科に入局し、九州大学生体防御医学研究所での大学院国内留学や関連病院出張、カナダへの留学を除いて、佐賀大学で臨床、教育、研究に携わって来ました。今回、佐賀医大卒ということでも多くの卒業生の皆様からの祝福と激励の言葉をいただき、期待と責任をひしひしと感じています。これからもよろしくお願ひします。

さて、平成23年度から佐賀市では子宮頸がん検診にHPV検査を導入しました。国内でも導入している自治体は未だ少なく、九州では初めてでした。子宮頸癌の90%以上にHPV（ヒトパピローマウイルス）が関与していることがわかっており、現在中学生女子にはHPV予防ワクチンの無料接種が行われています。子宮頸がんの検診では、細胞診を用いて子宮頸部異形成という前癌病変から発見することができます。浸潤がんになる前に発見できれば、子宮を摘出することなく治療ができるので、若い女性では妊娠、出産も可能になります。子宮頸癌がん検診は、侵襲も少なく精度も良いのですが、残念ながら日本の検診率は先進国中最低で20%を少し超えるぐらいでしかありません。佐賀県は子宮頸癌の死亡率も高く、検診率を上げることは重要です。HPV検査を細胞診と併用すると、その感度はほぼ100%になり、細胞診もHPVも陰性であれば、検診は3年後でもよいこととなります。これらのことをアピールし、検

診率を上げようというのが今回の試みです。実際、対象年齢の検診者数は15%増加し、特に40～44歳では25%も増加しました。今後、県内の他の自治体にも広がり、佐賀県全体の検診率が上昇することを願っています。

子宮頸がん検診とともに重要なのが、HPV予防ワクチンです。中学生女子には公費助成で無料接種できます。それでも、接種率は佐賀県全体では80%以下で、市町村によっては非常に低いところもあります。子宮頸がんに関与しているHPVの中で16、18型しか予防できませんが、この2種類のHPV感染を予防できれば、40歳未満の子宮頸癌の90%が防げることもわかっています。自費接種になりますが、特に20歳代の女性の接種は効果が高いと考えられます。ただし、100%ではありませんし、その他の年代では60～70%しかカバーできませんので、検診の重要性には変わりありません。

このように子宮頸癌は、がん検診とHPVワクチンの両輪でかなり予防できる時代になって来ました。約20年前の留学中の研究テーマは、「HPVによる子宮頸部の発癌モデルの作成」でした。基礎研究から始まり、現在では臨床応用され、さらには予防までというすばらしい成果を目の当たりにして来ました。すべての癌の中で、これほど原因が明らかになり、その予防までできるようになったものは他にありません。この子宮頸癌の予防こそが、今後の私の使命と考えています。

# 卒業生へのメッセージ 15

## — 数学教室の近況 —

数理科学専攻長 宮崎 誓

数学科、数理科学科の卒業生の皆様、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

現在、数理科学科は創立当初と同じく、学部学生は30名で運営しています。数理科学科と名前を変えましたが、数学科を引き継いでおります。ご承知のように、佐賀大学は旧制佐賀高校と佐賀師範学校を母体としています。数理科学科の前身は、戦後に佐賀大学となった文理学部にあります。そのような経緯で旧制高校からの伝統を引き継いでいる数学系学科は全国で21大学あり、九州内では熊本と鹿児島と佐賀であります。由緒正しく、歴史を振り返るべきでしょうが、原稿を依頼されたとき、ずばり私が適任なのか、と感じたくらいでした。佐賀大学に赴任してまだ5年しか経過していません。佐賀大学数学科の卒業生で、名工大助教授・島根大教授を經由して赴任された前田教授や、長い期間、佐賀大学の数学教室を支えてこられた三苦教授、市川教授がおられます。たまたま「卒業生へのメッセージ」を依頼された時点での専攻長というだけで、数学教室を代表して駄文を綴るのは憚れた次第です。そのように感じつつも、同窓会との懇談会に最近出席しました。最大の収穫は、卒業生の方が何となく佐賀大学を好きであるということを感じました。セレモニーは苦手ですが、私にとっては十分な収穫でした。そのような大雑把な考えしか持っていませんが、小さな繋がりを大きく広げていきたいと思えます。

数理科学科は理工学部6号館にあります。12名の教員が所属しています。1年生・2年生においては、微分積分学、線形代数学、集合・位相の基礎教育、3年生では、代数、幾何、解析の専門教育というように次第にレベルアップを目指しています。4年生では、卒業研究を主にやっており、さらに大学院に進学する学生がいるという状況です。23年度の数理科学科卒業生は23名の内、教員7名(正式採用2名)、民間企業4名、大学院進学9名(九大1名、佐賀大8名)、その他3名です。正直に言うと、就職は厳し

さを増しています。「何とかしなくては」と思っています。必ずしも就職率を上げるということではありません。「現状で各学生がベストの選択をする」ための土台をつくりたい、と思っています。学生にとっては情報が錯綜しています。各学生が悔いのない選択をすること、そして、きちんと勉強して(昔の大学とは違います)「就職には失敗したけれど、佐賀大学に来てよかった」という卒業生の言葉を聞きたいとは思っています。もちろん、「けれど」の前はない方がよいに決まっています。

大学というのは教育と研究が車の両輪です。各教員が優れた研究を続けること、学生に十分な教育を施すことです。この1・2年で大幅にカリキュラムを見直しております。今年度入学生より、1年生のチューターを3名にして、内1名を担任、2名を副担任としました。担任が基本的に履修援助、就職活動などを担当することになります。4年前から入学式の日には保護者懇談会を行い、学生生活への諸注意や「今、買うべきもの、買う必要がないもの」などの率直な意見交換も始めました。今年度の3年生からは「4年の就職活動経験談」を聞かせることにしました。今年の大学院学生からは、1年間で教員の専修免許が取得できるようにしました。そして、佐賀大学から進学する場合に4年の内に大学院の単位の一部を取得できるようにしました。結果的に、修士1年で教員採用試験に合格する学生が2年続けて現れています。就職データには何もプラスはありません。自慢話ですが、これらの改革は私が推進しました。寧ろこんなこともやっていないのか、とお叱りがあるかもしれません。長年、組織にいます、いろいろなことが見えません。風通しをよくして、気づいたことを一歩ずつ行っていこうと思っています。今後のご支援をよろしく願います。佐賀大学の教員・職員がよく頑張っていると思っていただくのが最高の支援です。



# 農学部就職ガイダンス開催

—農学部主催・農学部同窓会後援—

「農学部就職ガイダンス」が、農学部3年生および大学院修士1年生を対象に、平成24年11月28日(水)午後1時から約4時間、農学部大学院多目的講義室で開催されました。当日は農学部3年生を中心に73名が参加しました。本ガイダンスは、農学部学生の就職活動を支援する為に、農学部就職委員会と農学部同窓会が協力して企画しました。当日は、就職委員会から光富勝教授が主催者の挨拶をし、川副操副会長が激励の言葉を述べました。JA、企業、官庁等で活躍している農学部同窓生を講師として招き、各職場での仕事内容、会社概要、採用状況、就職活動の体験談や心構え等について話をして頂きました。その後、参加学生の質問時間を設けました。「佐賀大学農学部の学生は積極性に欠ける」という評価も聞きますが、この場ではその評価をスッキリ払拭するような面がみられました。

今年、次のような順序でお話を頂きました。①JA福岡中央会経営局組織整備推進部部長の小野義憲氏(昭和57年卒、農学科農業経済学)、②伊藤ハムウエスト(株)人事総務部の花田哲郎氏、長野沙織氏(平

成22年卒、生命機能科学科生化学)、③山崎製パン(株)人事本部九州地区担当の福並秀人氏、向井賢吾氏(平成21年卒、生命機能科学科応用微生物学)、④福岡県嘉麻市役所の辻田あずさ氏(平成9年卒、生物生産学科農業水利学)、⑤JAさがが農業資材部次長の堤繁文氏(昭和60年卒、農学科育種学)、肥料農薬課の熊谷とも子氏(平成24年卒、生命機能科学科生化学)でした。多忙な中に、講師を快諾頂き、後輩の就職活動の一助にと馳せ参じて頂いたことに厚くお礼を申し上げます。

OBの話の中で印象に残るのは、「就職希望先にいる先輩達に必ず連絡をとり訪ねること、連絡があって嬉しくない先輩はいないし、就職に役に立つ情報はきっと得れるはず」という言葉でした。夢の実会館内にある同窓会事務局で就職希望先の先輩達への連絡先など情報を得ることはできます。今年の就職戦線、少し回復しつつあるといわれますが、厳しい現状に変わりありません。頑張りましょう。

文責 白武 義治(農学・51年卒)



# 同窓生の職場 18

## ジェイアール西日本コンサルタンツ

「ジェイアール西日本コンサルタンツは、20年以上にわたりJR西日本グループの鉄道総合コンサルタントとして鉄道、駅を中心とした地域、社会の継続的な発展に貢献することを使命とし、利用者の方々に喜んでいただける高品質な成果を提供すべく日夜、技術力向上に努めています。」

入社半年の私ではまだ会社について語るのは早いだろう、と思い社長のお言葉をお借りして冒頭と致しました。私の勤める会社は上記にもありますように総合コンサルタントとして計画、土木、工事管理、建築、電気、ITの部門があり、それぞれの部門で個性豊かな専門家達があります。私は土木部門において仕事をしていますが、鉄道の業務は土木だけで完結する事は少なく部門を跨いで仕事をする事が多々あり、腕もあり癖もありと言う専門家達に揉まれながら日々精進しています。

折角ですのでこの精進の日々の中で私が設計を行った構造物を紹介致します。

山陽新幹線を使って上京される事があれば、姫路～神戸（西明石）間を走行する際、是非目をこらして左側をご覧ください。姫路を出て5分程経つとおよそコンマ3秒の間透明な板（騒音対策の防音壁）が見えます。非常にお手数をおかけしますが、私の自信作ですのでご覧頂けると嬉しいのです。

さて、私の紹介はここまでにして、他に在籍されています同窓生の先輩方から各部門のお話を伺ったものを紹介致します。以下敬称略になります。

### 計画部・江上 博文 氏（土木卒）

「ジェイアール西日本コンサルタンツは、JR西日本の100%子会社であり、創立25周年を迎えたまだ新しい会社です。発足（昭和63年）当時は社員17人でスタートし今では300人を超す、中堅コンサルタントに成長しました。仕事の概要は、JR西日本の各駅及び駅周辺のまちづくりの企画、計画、設計、施工監理を行う駅に係る総合コンサルタント会社であります。」

### 土木設計本部・井口 真一 氏（土木卒）

「リクルートの甲斐がみのり、ふと気づけば先輩後輩合わせて5人となりました。

5人そろって焼肉屋さんに行って佐賀牛が食べられるように、頑張って仕事にまい進しております。リクルート今年も行きます！たぶん……」

### 工事管理室・濱田 広紀 氏（都市工卒）

「私は6月からいったん設計を離れ工事監理として現場の業務を勉強しております。

職場は同年代の社員も多く、週末には必ず飲みに出かける程お酒好きの多い会社です。

また、これからも佐賀大学生がどんどん弊社に入社してくれる事を期待しております。」

また、あと一人同窓生がいますが、出向中につきお話を聞く機会を逃してしまいました。

以上の先輩同窓生達に囲まれ大変ながらも充実した社会人生活を送っております。

取り留めもなく書かせて頂きましたが、少しでも職場の雰囲気が伝わり、楽しそうな職場だと思って頂ければ幸いです。これからも同窓生一同、佐賀大学の名に恥じないよう頑張ってお参りますので暖かく見守っていただけると幸いです。



当社が設計しました、山陰本線鑑駅・餘部駅間にある余部橋梁です。サザエさんのOPにも出演した橋梁です！

木戸 弘大（工学系研究科・H24年卒）

## ★ ★ ★ 写真を探しています。 ★ ★ ★

佐賀大学では今、校門の整備と美術館の建設という新たな装いが進行中です。

その一方で、私たちが学んだ時代の思い出深い学び舎が徐々に少なくなり、一抹の寂しさもあります。

そこで、同窓会では、思い出深い学び舎を中心に、デジタル資料として保存しておきたいと作業を始めました。皆様がお持ちの写真を送っていただくと貴重な資料として保存致します。写真は、作業が済み

次第お手元にお返し致します。

会員の皆様のご協力をお願いします。

佐賀大学同窓会庶務担当より

送り先 佐賀大学同窓会事務局

〒840-8502 佐賀市本庄町本庄1番地 菱の実会館内

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700

E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

## 第15回 佐賀大学大学祭

10月27日(土)・28日(日)に佐賀大学本庄キャンパスにて、第15回佐賀大学大学祭が開催されました。今回の大学祭のテーマは繋がる、手をつなぐ、そして絆といった意味がある「Link」ということで、学生同士のつながり、地域の方々とのつながりをそれぞれが再認識し、深め、また新たなつながりを生む大学祭を目指しました。おかげさまで大学祭当日は多くの参加者・来場者に恵まれ、賑わいの絶えない大学祭となりました。来年度より佐賀大学美術館設置に伴い、大学祭ステージの場所が変更になります。これまでステージを開催してきた現在の場所も本年度で最後ということになり、感慨深いものがありました。しかし変化を恐れるばかりでなく、これをひとつの機会とし参加者・来場者の皆様にとってよりよい大学祭を創っていく、という姿勢で受け入れてい



きたいと思います。

最後になりましたが、佐賀大学同窓会の皆様・地域の皆様・佐賀大学の皆様・その他大学祭に関わっていただいた全ての皆様に心より感謝いたします。

## 第34回 むつごろう祭

10月5日(金)～7日(日)にかけての3日間、佐賀大学医学部学園祭「むつごろう祭」を開催することが出来ました。テーマカラーは紫色で、「佐賀医だよ！全員集合！むつごろう祭2012」というテーマを掲げ、たくさんの人に楽しんでもらえる学園祭にしようと尽力しました。

さて、今回お呼びしたゲストはSEAMOやFUNKISTといったアーティストに加え、お笑い芸人のザブングル・THE石原・おりがみ、「チームバチスタの栄光」等の著者として知られる海堂尊先生など、多分野に亘る豪華な顔ぶれで、来場者の方も大いに楽しんでおられました。

また、ステージ企画や医学展、キッズスクエア、東北支援、献血など医学生ならではのオリジナリティ溢れるイベントを企画し、実行委員一同、初めての経験に四苦八苦しながらも私たちのカラーを出



せたのではないかと考えております。

最後になりましたが、今年も無事に学園祭を成功できたのも様々な方からのご支援があってからこそだと深く感謝しております。この度は、佐賀大学同窓会から多大な寄付を賜り、実行委員一同、心より御礼申し上げます。

## 第20回 佐賀県青春寮歌祭

11月17日(土)「第20回佐賀県青春寮歌祭」がエスプラッツで開催された。全国から参加校26校約300人が集い参加者のなかには、学生帽、学生服、マント、はかま、法被をまとっての登場。ステージでは肩を組んだり、腕を振り上げたりそれぞれのスタイルで母校の寮歌、校歌、応援歌などを太鼓に合わせて青春時代に思いを馳せ、声高らかに熱唱した。毎年各地で行われている殆どの寮歌祭は旧制高校生が主体。最近参加者の高齢化で徐々に幕を閉じている。それに佐賀県青春寮歌祭は平成5年の第1回から新制大学と旧制高校の「新旧合同」で取り組んできている。当初は参加校16校でしたが、今年の第20回は26校に増え会場には参加校の懸垂幕がずらりと並びカラフルでした。

本寮歌祭は北大の「都ぞ弥生」を皮切りにわが母校(旧制佐高、佐大)の出番は22番目。はじめに「佐大学生歌」を作曲者・坂口清映氏(一小・31年卒)



の指揮で佐大混声合唱団と合唱。引き続き私(福田和夫(文理・29年卒))が巻頭言を唱え寮歌「南に遠く」で乱舞した。「元気な寮歌祭」として新旧世代で歌い継ごう。最後に佐賀県青春寮歌祭の益々の発展を祈念し来年を楽しみに。

福田 和夫(文理・29年卒)

# 第8回 キャリアデザイン (自分発見講座) の講義日程



## (佐賀大学同窓会支援事業)

実施期間：平成24年10月3日(水)～平成25年2月6日(水)  
 曜日・校時：水曜日2校時 (10:30～12:00)

講義順	実施月日	内 容	担 当 者
1	10月3日	ガイダンス (講義の進め方)	
2	10月10日	経済学部出身の先輩に聞く	村 上 直 己 (H2・経済) NHKブラネット九州支社 (制作統括部長)
3	10月17日	経済学部出身の先輩に聞く	堀 田 潤 (H17・経済) 佐賀銀行 基山支店 (得意先係)
4	10月24日	民間企業・公務員内定合格者体験報告会	在学生 (就職内定者)
5	10月31日	文化教育学部出身の先輩に聞く	小 石 克 (H8・総合文化) 佐賀新聞社 (デザイナー)
6	11月7日	文化教育学部出身の先輩に聞く	小 松 美 穂 (H22・学校教育) 佐賀市立赤松小学校教諭
7	11月14日	理工学部出身の先輩に聞く	大 中 勝 博 (S48・数学) ㈱ヘルメスシステムズ (代表取締役)
8	11月21日	理工学部出身の先輩に聞く	津 留 保 生 (H4・電気) 津留公認会計士事務所 (公認会計士)
9	11月28日	民間企業・公務員内定合格者体験報告会	在学生 (就職内定者)
10	12月5日	医学部出身の先輩に聞く	平 原 健 司 (S61・医学科) 唐津赤十字病院 (救急部長)
11	12月12日	医学部出身の先輩に聞く	島 歌 織 (H17・看護科) 佐賀大学医学部附属病院 (看護師)
12	12月19日	農学部出身の先輩に聞く	永 田 洋一郎 (S53・農学) 南さつま市役所
13	1月9日	農学部出身の先輩に聞く	野 口 千 明 (H21・応用生物) 祐徳薬品工業株式会社
14	1月16日	総括(1)	
15	1月23日	総括(2) (学生の質問に答える)	
16	2月6日	定期試験	

### 同窓会の動き (H24.7～H24.12)

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>7.1 佐大同窓会会報「楠の葉」No17発行</li> <li>9 佐大同窓会「会務の見直し会議」</li> <li>12 佐大同窓会「第3回代表役員会」</li> <li>13 佐賀大学校友会 役員会</li> <li>22 佐賀大学前学長佐古宣道氏叙勲受章祝賀会</li> <li>8.8 佐賀大学 オープンキャンパス</li> <li>9.5 佐大同窓会 キャリアデザイン講座打ち合わせ会</li> <li>13 佐大同窓会「第4回代表役員会」</li> <li>19 佐大同窓会「会務の見直し委員会」</li> <li>10.11 佐大同窓会「会務の見直し委員会」<br/>第34回むつごろう祭(鍋島キャンパス)</li> <li>11 佐大同窓会「第5回代表役員会」</li> <li>18 佐大同窓会「秋期定例役員会」</li> <li>24 佐大同窓会「広報・情報担当部会」</li> <li>25 佐大同窓会「第1回庶務担当部会」</li> <li>26 佐大同窓会「資料担当部会」</li> <li>27 筑後支部講演会・総会・懇親会／ランヴィエール勝島</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>27 諫早支部懇親会／L &amp; L ホテルセンリユウ</li> <li>27 第15回佐賀大学大学祭(本庄キャンパス)～28日まで</li> <li>28 佐賀大学ホームカミングデー</li> <li>29 佐大同窓会「会計担当部会」</li> <li>11.7 佐大同窓会会報「楠の葉」No18 編集会議</li> <li>8 佐大同窓会 第4回「学習会」<br/>／講師 佐賀新聞社 富吉賢太郎 氏</li> <li>14 佐賀大学同窓会と就職内定者との懇談会／大学会館</li> <li>14 佐大同窓会「庶務担当部会」</li> <li>17 第20回佐賀県青春寮歌祭／エスプラッツホール</li> <li>17 大分支部総会・懇親会／ホテルキャッスルOITA</li> <li>17 山口支部総会・懇親会／美称市秋吉台家族旅行村</li> <li>17 佐世保支部総会・懇親会／佐世保駅前レオプラザホテル</li> <li>18 東京支部総会・懇親会／新宿ワシントンホテル</li> <li>12.19 佐大同窓会「第6回代表役員会」・「佛淵学長を囲む会」<br/>／佐嘉神社記念館</li> </ul> |
|--|---|

※単位提供講座「キャリアデザイン」は上記日程表記載あり

ご意見  
メール  
等募集

会報についてのご意見をお寄せいただく場合は、郵送のほか電話またはE-mailでも受付けております。